

令和3年度福井県教員育成協議会 概要

令和3年11月26日（金）

10:00～11:30

県庁11階教育委員会室

1 開会

2 委員紹介

3 議事

(1) 教員育成指標の活用状況について

- ・資料1の1、2に係る事務局説明

(2) 令和4年度福井県教員育成指標（案）について

- ・資料2-1、資料2-2、資料2-3に係る事務局説明

(3) 令和4年度以降の福井県教員育成指標の在り方について

- ・資料1の3、4に係る事務局説明

〈主な意見〉

- ・（委員）「指導力」が「授業力」になったことで、子どもが主体的に学ぶ力を伸ばしていける教員が望まれていることがよく伝わる。また、ICT 機器活用についても追加されたが、大学でもデジタル教科書を使える学生を育成している。大学で若手教員が使える環境を整えているので、学校全体でも様々な年代が使える体制を整備してもらえるとありがたい。
- ・（委員）全国には ICT 活用についてのチェックシートがあるが、今後そのようなシートを作って指標と対応させていくつもりはあるのか。同じく、「多様な人々の存在を認め…」とあるが、多文化共生や LGBT の問題も含めて具体的な対応のイメージはあるのか。今後は教育工学などを活かして児童生徒への指導についてエビデンスベースでやっていく必要があるように思う。
- ・（委員）指標について個別の分野ごとにチェック表のようなものを作ると枝葉末節の部分が気になり、全体が機能しなくなる。現在の指標は根本的な部分が明確にされているので、現状を振り返って、新しいものを入れすぎると指標が膨れ上がる危険性を感じる。4つの教師像と下のフレームとの関連付けをすれば、それぞれの関係性ははっきりする。
- （委員）管理職としては、人材育成の面で学び続ける教員や教員のリーダーシップの育成が大事だと考えている。

(委員) 現在の育成指標は分量が多く、説明を聞かないと分からないところがあるから、要点を絞ったほうがよいのではないか。指標を事細かに書くのではなく、本当に大事なことをいくつか列挙して、現場で大事なことを考えもらう方法もある。

(委員) 【連携・協働】で「家庭、地域社会、関係機関との連携・協働のネットワーク形成」や「学校内外の諸活動に…積極的な参画」とあるが、管理職に「PTA や地域の理解を得るための取組」という部分に少し矛盾を感じる。PTA としては先生方やPTA 活動を減らすために活動の簡素化を提案しているが、学校側が受け入れない場合がある。企業のようにトップダウン的に県教委から学校側に減らすように指示はできないか。

(委員) 「学校はいいところ」と現場からアピールするのは限界にきている。採用前の段階からアピールする工夫が必要。

(委員) 福井市では、昨年度から履歴として教員研修について簡単に記録してもらっている。教員各々がこれから自分に必要な資質・能力を指標に基づいて考えられるようにするためにも管理職が教員の考えを把握し、県や研究所・センターと連携していけたらよい。

(委員) 「学年経営・学級経営」で、「学級目標の達成…」という文言が消されている。「安心してすごせる学級経営」は何より大事であるが、具体的な記述は残しておいた方がよい。

(委員) 福井県は特別支援教育の専門家を多数専門機関の配置し、相談体制も充実させている。支援を要する子どもを担当したことがない教員はいないと思うが、そういう子たちをどのように理解し、指導していけばよいかは今の指標に十分書かれている。

(委員) 環境としては整っている本県ではあるが、特別支援教育については体系的な研修を行う必要があるので、初任者研修、中堅研修、管理職研修等で短時間でもよいから特別支援教育に関する研修を入れて欲しい。